

- 徳島県では「**とくしま安²(あんあん)GAP農産物認証制度**」を推進している。
- 平成29年度から東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供に向けて**GAP認証取得に対する農業者の機運が高まってきた**ことから、勉強会や現地指導を実施している。
- 青年農業者団体の**会員4名が、新たに安²GAP優秀認定を取得し、他の会員も申請準備中**である。

具体的な成果

1 安²GAP優秀認定取得

青年農業者団体「GOTTSO阿波」の会員4名が安²GAP優秀認定取得し、その他の会員も申請準備中である。



2 農業者の主体性の向上

認証取得者が**自発的にGAPの勉強会を開催**し、資料を自分で作成して配布する等GAP認証取得に向けて農業者が**主体的な動き**を見せている。



普及指導員だからできたこと

これまで安²GAP優秀認定は農業法人や大規模農業者が取得することが多かったが、**研修会や個別指導を繰り返す**ことで青年農業者の**GAPに対する関心と理解が得られ、認証取得が可能**となった。

普及指導員の活動

平成29年度～

1 GAP導入説明会の開催

農業青年クラブの定例会でGAPの基本である食品安全や環境保全、労働安全について説明

2 安²GAP優秀認定取得の勧誘

GAP導入に最も高い関心を示した青年農業者団体「GOTTSO阿波」に対して指導開始

3 GAP認証取得勉強会の開催

- ・制度や認証取得の方法、必要な書類の作成方法等を説明
- ・管内のGLOBALGAP認証取得農業者への視察研修を開催



4 個別指導

会員が最も不安視している次の2点について適宜現場に赴き、指導

- ①自分の農場がGAP認証取得可能な環境か
- ②作業効率を落とさずGAP認証取得可能か



青年農業者に対するGAP導入支援

活動期間：平成29年度

1. 取組の背景

GAPは協同農業普及事業のガイドラインで重点的に推進する取組と規定されており、徳島県としても平成23年度から「とくしま安²（あんあん）GAP農産物認証制度」

（以下、安²GAP）を推進している。安²GAP優秀認定は、農林水産省の「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」に準拠している。

管内では、東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリ・パラ）への食材提供に向けてGAP認証取得の機運が青年農業者を中心に高まってきたことから、安²GAP優秀認定の推進を行った。

2. 活動内容（詳細）

（1）農業青年クラブを対象にGAP導入説明会を開催

農業青年クラブの定例会等で安²GAP取得について説明を行ったが、最初はGAPに馴染みがない上に、面倒で、収益性もなく、メリットがないものといった間違ったイメージを持っており、受け入れられなかった。

そこで、GAPへの正しい理解と関心を持ってもらうために、まずはGAPへの関心を醸成することから始めた。具体的には、GAPの基本である食品安全、環境保全、労働安全などを、分かりやすい例を使って説明した。そして、GAPに取り組むことによって、自分たちの商品の安全性が向上し、作業環境もよくなること、また「GAP導入」は「GAPの認証取得」と異なり、決められた規定や期日はないため、自分達ができる範囲で行うことができ、農業者にとって手軽で、負担にならない方法であることを伝えた。

（2）安²GAP優秀認定取得の勧誘

粘り強く説明を行っていくことで、徐々にGAPへの理解と興味が深まっていった。その中でGAP導入に最も高い関心を示した、阿波市で「GOTTSO美～ナス[®]」のブランド名でナスを栽培する若手農業者団体「GOTTSO（ゴッツォ）阿波」に対して指導を進めることとした。また、安²GAP優秀認定が東京オリ・パラの食材調達基準として認められることもあり、青年クラブの中で、東京オリ・パラの食材提供への機運が高まり、目的が「GAP導入」から「GAP認証取得」へと変化した。



図1 GOTTSO美～ナス[®]

（3）GAP認証取得勉強会等の開催

安²GAP優秀認定取得希望者である「GOTTSO阿波」会員（以下、会員）に対して、勉強会を開催し、制度や取得の方法などの説明を行うとともに、取得時期の確認と取得に向けたスケジュールを取り決めた。

「GAP認証取得勉強会」として10名の取得希望者が集まった。まず、今後の農業経営でICT等を利用するためには、パソコンやタブレットの利用に慣れていく必要があると考え、資料作成は基本的にパソコンなどのアプリを利用して作成するように指導した。

防除記録などは運用の簡便さを目的に記録様式を統一し、会長自らが会員に配布し、説明するように支援した。会長のリーダーシップの向上と会員の結束およびGAPに対する理解の促進ができた。

また、GAP認証取得のためには、必要な書類や確認事項が多いため、チェックシートを作成して会員に配布し、それを活用することにより、各々の不備な部分を確認できるようにした。

このようなGAP導入から認証取得のための勉強会を計6回と管内のGLOBALGAP認証取得農業者視察研修を行った。

勉強会等でGAPへの理解が得られた後は、各々の疑問に一つ一つで対応した。会員が最も不安視していたことは、自分の農場・作業場が構造上GAP認証取得が可能であるかということと、作業効率を落とさないでGAP認証を取得することができるかどうかであった。それに対して適宜現場に赴き、指導を行った。

その他に、内閣官房の勝野参事官と東京オリ・パラに向けた「食」の取組意見交換会を行い、会員のGAP認証取得の啓発とモチベーションの向上が図られた。

これらの取組が、阿波市役所、阿波市観光協会を中心とした広報活動やテレビ放映されることにより、GAP認知度向上につながっている。



図2 研修会の様子



図3 会員が作成した書類

3. 具体的な成果（詳細）

平成30年7月現在、4名の会員が安²GAP優秀認定を取得し、他の会員も申請準備中である。また、取得者が自発的にGAPの勉強会を開き、資料を自分で作成して配布するなど、GAP認証取得に向けて農業者が主体的な動きを見せはじめている。これらの取組によりGAPへの理解、GAP認証取得のみならず、会員の結束と主体性の向上が図られた。

東京オリ・パラの食材提供といった大きな目標ができたことにより、会内に活気と向上心が生まれている。

4. 農家等からの評価・コメント（GOTTSO阿波会員 T氏）

自分のは場や作業場のどこにリスクがあるのか、日頃から意識できるようになった。東京オリ・パラに向けて引き続き支援をお願いしたい。

5. 普及指導員のコメント（吉野川農業支援センター・主事・坂東裕香里）

認証取得及び東京オリ・パラが目標ではなく、その後も各農業者の経営改善活動としてGAPに取り組むことを伝えている。今後も研修会や個別対応等で支援を続けていく。

6. 現状・今後の展開

これまで安²GAP優秀認定は法人や大規模農業者が取得することが多かった。個人経営の青年農業者がGAP認証を取得したこと、様々な広報誌に取組が掲載されていることなどから、今後、他の農業者への波及効果が期待され、引き続きGAPの取組と認証取得を支援していく。